

令和6年度の学校統合に向けた活動について

令和5年3月22日

令和6年度からの伊太小、相賀小、神座小、伊久美小、島一小との統合に向け、学校同士の交流活動を進め、また、カリキュラム等検討委員会、拡大カリキュラム等検討委員会等を通して準備を行ってきた。

1 交流活動

年間を通じて、計画的に交流活動を行っている。「授業交流」では、学年ごとに、一緒に学習や食事をしたり、遊んだりしている。その他、社会見学、音楽発表会、観劇教室、伊久美小での移動教室などを行っている。

低学年の児童は、保育園、こども園、幼稚園の旧友と再会することもあり、すぐに打ち解けている。中・高学年の児童は、最初は緊張している様子が見られたが、時間が経つにつれ、表情もほぐれていった。

交流活動を重ねるごとに子供同士の人間関係が深まり、中には交流会を待ち遠しく思っていることを言葉や表情で表す子供もいる。



2 校名・校章・校歌

(1) 校名を、「島田市立島田第一小学校」とする

5校が統合した「新しい学校」は、児童数や学区の大きさから、島田市における大規模校のひとつとなる。

島田市の小中学校名は、地域の名称や、第〇小のように順番を表す名称で示されている。学校や学区の大きさ、校名における市内全体のバランス等を勘案し、「新しい学校」の校名を「島田市立島田第一小学校」とした。

(2) 校章は、島一小の校章を基に、検討していく

「校名と校章はセットである」「校章は学校のシンボルである」という意見に基づき、5校が統合したことや、地域性が示されるような、新しい学校にふさわしいものを、児童の意見も参考にして検討していく。

(3) 校歌は、島一小の校歌を基に、検討していく

曲は島一小のものを使用し、歌詞は島一小の校歌に地域性が表れる言葉を入れ込むなど、「新しい学校」にふさわしい校歌を検討していく。

3 「新しい学校」での教育環境と教育活動

(1) めざす子供の姿「自ら考え、判断し、表現する」

5校の児童の実態を踏まえ、設定した。主体性や学びに向かう姿勢、思考力・判断力・表現力等の資質・能力の育成を図る。

(2) 新校舎建設とICT環境を整備

新校舎建設に加え、新たなICT環境（全教室ホワイトボード、プロジェクター、校舎内Wi-Fi環境等）を整備する。新たな教育環境の下で、1人1台端末を効果的に活用しながら、「子供が主体となる学習」を推進する。



(3) スクールバスの目的外使用

10年後の未来を見据え、子供たちが、将来、地域や市内で課題解決を図ったり、未来を創造したりする力を付けていけるよう、「総合的な学習」等を中心に、「問題解決的な、探究的な学習」を実現する。そのために、スクールバスの目的外使用を効果的に活用しながら、地域での体験活動等を積極的に行う。

(4) 教科担任制

教科担任制を積極的に推進し、専門性の高い教科学習を通して、子供の主体性を最大限に引き出しながら、学力の育成を図る。

(5) 児童の心のケア

児童の心のケアに向け、北部4小学校から教職員を異動させたり、加配教員や学校教育支援員を効果的に配置したりする。

(6) 登下校のスクールバス運行

児童が安全に登下校できるよう、伊久美、神座、相賀、伊太地区一部に、登下校時におけるスクールバスを運行する。

4 その他

(1) PTA活動について

新たなPTA会則を作成し、5校から役員をバランスよく選出する。令和6年度は会長・副会長を島一小から選出する。令和7年度からは、北部地区の保護者が参画する。

(2) 閉校記念式典

閉校式典は、令和6年3月23日(土)、24日(日)を予定している。